

2023.05.22 第一刷
 [編集・発行] 合同会社流動商店
 [DTP デザイン] 三文字昌也・早川知里
 [会社情報] https://ryudoshoten.tokyo/
 [お問合せ] hello@ryudoshoten.tokyo



きかん
りゅうどうしょうてん

「お店をつくるなんでもやさん」
 合同会社流動商店がお届けする最新情報
 RYUDOSHOTEN ISSUE

2023
春

¥0
TAKE FREE

【特集】流動商店の拠点

新拠点が文京区千石にできました。流動商店の2つの拠点の今後の展望についてご紹介します！

#003
第三号

季刊
流動商店

事業
のお仕事
の最近の
流動商店

東尋坊再整備事業 2019.12- 福井県坂井市

北陸に位置する「東尋坊」を訪れたことはあるだろうか。東尋坊は、輝石安山岩による柱状節理の景観が特徴の名勝・天然記念物であり、20軒を超える商店街も有する一大観光エリアだが、北陸新幹線の延伸を契機とし、再整備事業が計画されている。流動商店も参加する共同企業体*が2019年11月のプロポーザルで採択されて以来、この地域を大きく変える事業のデザイン・設計を3年以上にわたってお手伝いし続けてきた（*（株）空間構想・（株）都市環境研究所・（株）Hokamura Design とのJVによる4社共同受託）。分野も内容も多岐に渡る業務であるが、いよいよ施工を目前とした現時点で、やってきた事業を振り返ってみたい。

- A 東尋坊再整備基本計画の策定 2019.12 ~ 2020.7**
 行政各所・地元の店舗など関係者との協議を重ね、すべての道筋となる基本計画を策定した。
- B 地域全体のランドデザイン・基本設計 2020.10 ~ 2022.3**
 基本計画をもとに、実際に整備するとしたらどういうデザインになるか、土木・都市・建築的な観点を総結集してマスタープランを作り上げた。色々なプランが出て、色々なプランが消えていった末に、実施案に辿り着いている。
- C 東尋坊を核とした広域の観光戦略策定 2021.5 ~ 2021.10**
 東尋坊の整備だけでは、点の整備で終わってしまう。今回の再整備を契機とし、地域全体を盛り上げていくために何ができるか、考え方を整理し、坂井市「三国グランドビジョン」を作り上げた。
- D エリアマネジメント組織の立ち上げ・運営補助 2022.4 ~ 2023.3**
 そして、行政だけの計画では、実際の継続性やマネジメントが回っていかない。地元で新しいエリアマネジメントが立ち上がった際に、流動商店も毎回新会社の会議に出席させていただき、初動期のお手伝いをしてきた。
- E 社会実験イベントのお手伝い 2020.7 ~ 2021.1、随時**
 と、真面目なだけの計画では地元の皆さん・関係者一同ワクワクしない。パイロットケースとして、地元の観光組織と共に、東尋坊での音楽フェスやマルシェなどを仕掛けていった。
- F 既存商店街のデザインガイドライン策定・仕組みづくり 2021.5 ~**
 新しい道路や駐車場、建物ができたとしても、既存商店街の店舗の重要性は変わらない。各店舗の皆さんと協議を続け、まちなみをさらによくするためのガイドラインを策定し、それを守るための仕組みを構築した。現在も、各店舗の改修事業が着実に進行中だ。
- G 新築する案内所・店舗の設計 2022.10 ~**
 東尋坊では、新しい建築物の計画もいくつか進行している。そのうちの2棟の設計を流動商店が担当。建築メンバーが増えた流動商店の新しい作品を楽しみにしてほしい！



発酵サギョウ 店舗デザイン 2023.4- 東京都江戸川区

2023年3月から、新しいプロジェクト「発酵サギョウ」がスタート。北海道の酒蔵出身の施主が日本酒と発酵食品のバー「発酵サギョウ」をつくるにあたり、店舗デザインの依頼をいただいたのが始まりである。敷地は江戸川区平井駅すぐ

のY字路に建つテナントで、道路2面からアクセスできる立地だ。空間も発酵するかのように、ゆっくりと段階的に設えていくことをコンセプトに据えた。今年の夏に第一段階の工事を終えオープンする予定だ。



街路に向かってディスプレイされる。天板は人工大理石を研磨し継ぎ目をなくし、角を取りアールを付けるディテールにし、全体がぼんやりとしたまま奥に向かって伸びていく印象に仕上げた。

天井はエキスパンドメタルを曲げ加工し、柔らかない雲のような印象の曲面を作り、天井裏から照明で照らしている。壁面に埋め込まれている木製のスリットは掲示用の物で、用紙サイズに合わせて設け、坂井市の木である桜を使用している。

4月末にオープン。坂井市のお酒、食材を是非堪能してほしい。（Hokamura Design へ協業）

OUR
RECENT
PROJECTS

KINENO
アンテナショップ
設計・デザイン

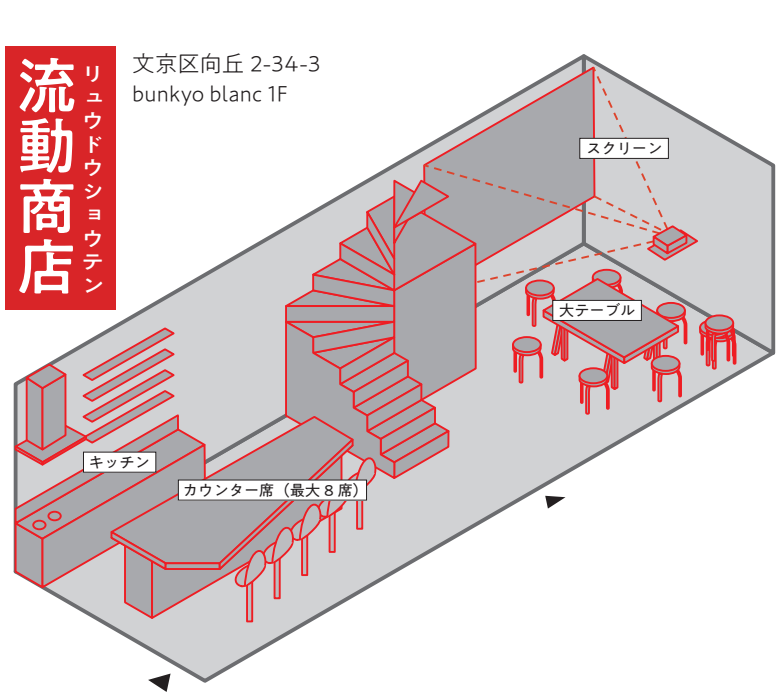
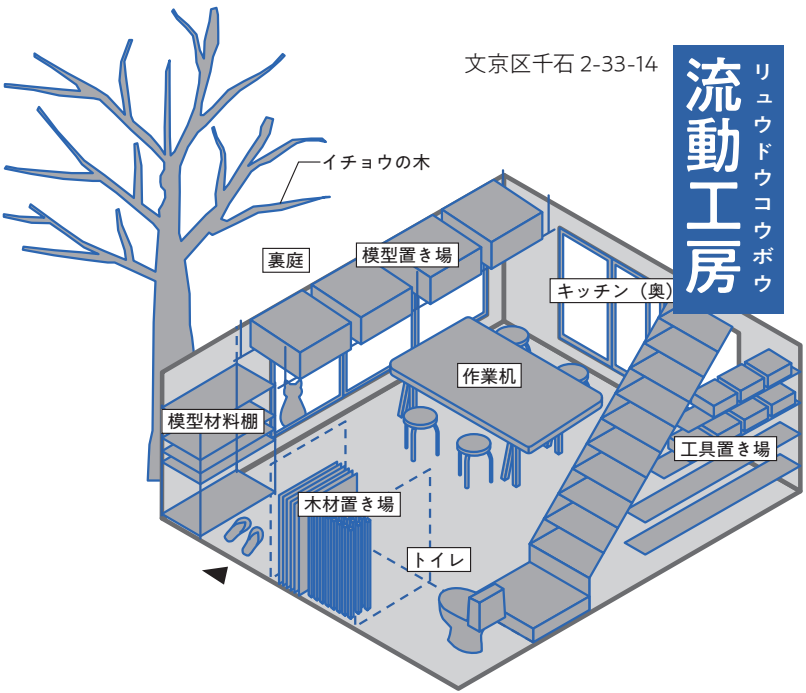
2023.04 東京都品川区

品川区戸越銀座商店街の一角に福井県坂井市のアンテナショップが竣工した。元々同商店街内にあった店の拡張再移転だ。以前より坂井市産の野菜が人気で、八百屋のように近隣住民に親しまれてきたアンテナショップだからこそ、小売店としての要素はそのままに、飲食店としての要素をプラスして設計をした。間口から奥に向かって物販を目的とした空間から飲食や交流を目的とした空間へと緩やかに繋がっていくよう計画し、外部から内部へ折れながら連続するカウンターがその空間をやりわりと区切っている。折れ曲がったカウンターは商品の陳列面積を確保すると同時に、



特集 流動商店の拠点

私たち流動商店が拠点を置くのは、東京都心に近接する文京区の一部。2023 年頭から新しいオフィス拠点が増え、複合ビル bunkyo blanc 内の店舗「流動商店」と、オフィス・工房機能を持つ「流動工房」の 2 箇所体制となった。それぞれの大家さんと共に作り上げてきた 2 つの拠点を、簡単にご紹介したい。



本駒込駅と白山駅から徒歩 3 分ほどの通り沿いに、bunkyo blanc (フンキョーブラン) と名前がついたビルがある。流動商店三文字の大学の先輩の柄澤氏が 2019 年に取得した物件を、流動商店内外の仲間とセルフノベーションし、飲食店・宿泊施設としたものである。1Fでは、流動商店プロデュースの飲食店が「ことことぶき」「流動商店・tokyo」などと名前を変えながら営業中。代表も含む流動商店メンバーが時たま店に立っているの、ぜひ飲みにきてほしい。また、キッチン付きの貸しスペースとしても利用できる。

小石川植物園の北西すぐの路地に、木造の長屋が道路からほとんど見えない状態のまま残り残されている。これが、私たちの新しい拠点「流動工房」だ。日頃、流動商店が何かとお世話になっているきよたけ建築工房さんが取得され、改修を行った物件である。正確にはわからないものの、築年数は 80〜90 年くらいだと思われ、縁側やバルコニーも備える快適なオフィスとなった。今後は会員制のシェアオフィスとしても利用できるようにする予定で、流動商店が所有する各種工具も利用できる。敷地内には巨大なイチョウの木が生えており、四季を感じられる。いつでも遊びにきて欲しい。



雑考 記録

流動商店メンバーが、最近気になるトピック・小話を雑考しご紹介。

名前をつけてやる / 早川

最近やたらと「名前をつける」場面に出くわすことが多い。というより、名前をつけなければいけない場面って世の中めちゃくちゃ多いんじゃないか。

最近子が生まれた友人は、名前前で探めて、提出期限の二週間ギリギリまで子供に名前がなかったそう。その間なんて呼んでたんだろうか、所在なかったらうなと想像する。

新しい商品にも、植物にも、建物にも、野良猫にも、自分の店にも、イベントにも、それが呼ばれて共有されるためには名前が必要だ。(当たり前だけど) 建築も、プロジェクト時から何度も呼ぶものだから良い名前をつけてあげたい。みんなどうやって名前をつけてるのだろう。某邦ロックの曲じゃないけど、立派で馬鹿みたいな名前がいい。良き名づけのセンスが欲しいな」と思う今日この頃である。

ジョージア料理はしょっぱい / 豊田

旅行で訪れた国では必ず地元のものを食べるの、美食の概念を分析してきた。しかし、ジョージア料理はとてとても表現が難しい。首を傾げたのがトマトサラダ。トマト、パクチー、ピクルス、塩、ピネガー。少しメキシコ料理のようなニユアンスもあるが何か何とも言えない塩味がある。正体を頭を悩ませながらコップの水を飲んで答えたにたり着いた。水だ。サラダと全く同じ味がする。ミネラルの塊のような水だった。



トマトはこの水を吸って育ったのだから。表面に塩がついたトマトの味ではなく果肉の内側からも塩味が湧いて出てくる。多分日本でジョージア料理を再現しても違うものになるだろう。毎日トマトにゲロルシュタイナーだけを与えて育てるのは難しいと思う。水はスパイスや冷凍ハーブより運びづらい。改めてその土地と料理の結びつきの本質を考えさせられた。

福井の青い宝石 / 中山

福井県でかつて採掘されていた「笏谷石」という石をご存知だろうか。「ふくいブルー」と呼ばれる青緑色の火山岩(厳密には灰なども含まれる)である。柔らかな加工がしやすい上に、その宝石のような美しさから、食器から建築材料など幅広く使われている。現在では採掘されていないため、貴重なものとなり、坂井市にある石材店が古い家屋などから引き上げた笏谷石を再生し、取り扱っている。設計中の物件の扉の引手にこの笏谷石を使ったデザインを検討していて、しっとりとした石肌合う形を導けるか今日もスケッチをひたすら描き続けている。

香港の都市森林を映画で / 三文字

王冢衛という 1958 年生まれ、香港の映画監督がいる。2022 年、彼の作品の多くが 4K レストアされたのだが、僕の推しは「恋する惑星」。役者とストーリーもだが、返還前の香港市街の様子が克明に描き出されていることにグッとくる。原題は、舞台となった重慶大廈を森林に擬えたものだが、僕が初めて香港を訪れた際、泊まっていたのは重慶大廈のドミトリだった。映画の公開から 30 年、香港が変わったものと変わっていないものは何だろうか。同監督では「ブエノスアイレス」もオススメなのでぜひ。